

Face to Face

Tobita Dental Clinic

歯科一般/小児歯科/予防管理/口腔外科/インプラント/矯正歯科/審美歯科

11-19 Hirose, Kita-ku, Okayama-city, Okayama-prif 700-0806

Tel 086-222-3194 <http://www.tobitadc.jp/>

2020
夏
Vol.39



当医院の定期健診は歯を長持ちさせています。

飛田歯科医院では長年に渡って歯科衛生士によるお口のお手入れ方法をお伝えすることと、クリーニングを積極的に行なってきました。また、治療後は定期健診の受診をおススメしてきました。これらのことがムシ歯や歯周病を予防し「歯を長持ち」させていることが実証されました。

ムシ歯と歯周病の予防の歴史

1600年代後半「微生物学の父」とも称せられるAntonie van Leeuwenhoekが歯に付着する白い苔(plaque)を観察し、その中に生きて動いている細

菌を発見します。この歯に付着したplaqueを布に塩を付けてこすり、鶏の羽毛で掃除し水で洗い流すという口腔衛生の必要性が初めて考えられました。

1819年アメリカの歯科医師Levi Spear Parmlyの論文で、ムシ歯と歯周病を予防するためには毎日の習慣として歯と歯の間、歯肉溝内へフロス使用が強調されます。

1906年アメリカの歯科医師Alfred Civilian Fonesが子供のムシ歯予防を行う助手として世界初の歯科衛生士を育てました。

中面につづく



老当医院の定期健診は歯を長持ちさせています。

日本では1948年連合国軍総司令部(GHQ)の指導で保健所にムシ歯予防の指導を行う業務として歯科衛生士が誕生します。1961年に健康保険制度(国民皆保険)が導入されますが、当時は歯科医師不足と歯が悪い国民が多かったため、歯の痛みを早く解消し、失われた歯を修復することが主な治療内容でした。1989年から歯磨きの方法を教える歯科保健指導ができましたが、歯科医院はあくまで、治療が主な業務でした。

1900年代末になると歯科治療がより高度になり、積極的な歯周病治療が行なわれるようになったことで、口腔衛生管理の重要性が徐々に注目されるようになりました。2000年代になるとインプラントが一般的な治療となり「予防歯科」も注目を集めるようになり、口腔衛生管理という考えが徐々に広がります。しかしながら、健康保険制度はあくまで疾患を治療することが目的のため、予防的な処置や歯科治療後の定期健診は正式には認められていませんでした。

2010年代になると定期健診が認知されるようになり、2017年から「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」の認定が始まってからは、健康保険制度として歯科衛生士が積極的に予防管理と定期健診が正式に行なえるようになりました。

飛田歯科医院での予防と管理

昭和初期に祖父が開業し父が引き継いだ歯科医院で、1994年から私は診療を開始し、当初から下記のODRG(※)3原則に従っての診療をこころみてきました。しかしながら、予防という考えが浸透していない時代背景と国民皆保険制度では認められて無い部分が多い状況でした。しかしながら当初から試行錯誤を繰り返しながら予防管理を積極的に実施してきました。

- ①全ての患者に口腔衛生管理の習慣化を指導する。
- ②全ての患者さんに最適最善の治療計画を提示する。
- ③全ての患者に定期健診を実施する。

※1962年に創設されたODRG(大阪デンタルリサーチグループ)は1900年初頭からアメリカで研究された予防歯科診療のシステムを研究したグループです。

そして「予防」が徐々に認知され制度も改変されてきました。

日本人の平均値より歯が長持ちしている実績

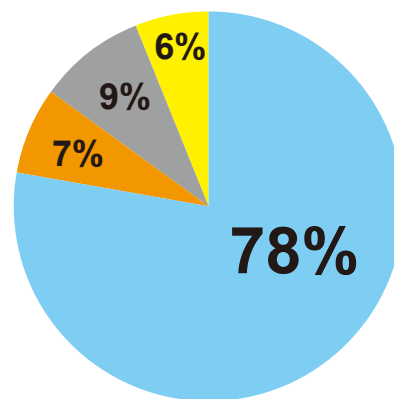
この春、1900年末から現在に至るまで来院された患者さんのカルテを全て分析したところ、4年毎に厚労省が実施している2016年歯科実態調査(日本国民の口の健康状態を分析するための調査)の結果よりあきらかに喪失歯数(失った歯の本数)が少ないことが判明しました。

飛田歯科医院に10年以上定期健診に通院されている方(165名、20歳以上)の統計から

①定期健診を開始した平均年齢46.7歳から61.0歳の14.3年で、一人平均**0.5本**しか歯を失われてなく**77.4%の方が歯を失っていません。**

歯科実態調査では45歳から60歳の15年間での一人平均**1.75本**失われています。

■ 喪失なし ■ 1本喪失 ■ 2本喪失 ■ 3本以上喪失



②165名中、55歳以上で定期健診を開始された50名では定期健診を開始した時の平均年齢62.9歳から75.5歳の12.6年で一人平均**0.6本**、**66.0%の方が歯を失っていません。**

歯科実態調査では62歳から77歳の約15年間で一人平均**5.9本**失われています。

当医院に定期健診に通われている方は一般的な方よりも歯を喪失する可能性が低く、特に高齢になればその違いは顕著に現れています。



Tobita library

とびた図書館

医院の待合室に置かせていただいている本を紹介しております。
解説はあくまで私の偏見ですのでお許しください。



■「ちよっとネコぼけ」

岩谷光昭

岩谷さんは「ねこ」の写真集を多く出版されています。その中でも 2018 年で13版も増刷されているのがこの書籍です。表紙の鼻ちょうちんの写真に魅せられて購入された方が多いのではないのでしょうか。国内だけではなく世界中で町にいるネコの日常を撮影されています。ネコがじゃれあったり、親子の風景だけではなく、イヌやペリカンとの競演もあります。かわいいだけではなく様々な表情が撮影されているので楽しんで癒される写真集です。ちなみに私が好きなのは裏表紙のコンクリートに刻まれた化石のようなネコの足跡です。



■「必死すぎるネコ」

沖 昌之

本の帯に糸井重里が「この猫たちに弟子入りしたい」と書かれています。私は一生懸命生きている姿がかわいくもあり、滑稽でもあり、楽しめ、癒される写真集だと感じました。ネコだけでなく、ザリガニ、蝶、蛇、車、草などとのふれあいや一生懸命なネコの姿が写されています。その表情や動きも楽しめますが、私が気に入ったのはネコの後姿です。尻尾と後ろ足の表情が何ともいえないくらいかわいく感じてしまいました。癒されますのでぜひご覧ください。

飛田図書館ブログ
こちらから。





医院からの

お知らせ

コロナ感染予防に口腔衛生管理

アメリカ歯科医師会研究所初代所長やアメリカ歯科医師会会長を務めたWeston Price(1870～1948年)は、100年前のスペインインフルエンザ(H1N1型)のパンデミック時にアメリカ人とイギリス人260人を調べた結果が報告されています。それによると、歯科感染症のあった人は、インフルエンザに罹患した群で72%に達し、重篤者が多かったが、歯科感染症のなかった人の罹患率は32%でした。インフルエンザやコロナウイルスが気道粘膜上皮細胞へ進入する時に歯周病菌が進入に加担すると考えられています。また、オーラルフレイル(口の機能の低下)も関与していると考えられています。

近年の実例としても要介護高齢者に対して歯科衛生士の口腔清掃を含む口腔衛生管理を実施した場合、インフルエンザの罹患率が低下することが発表されています。

この他にもPRESIDENT(プレジデント)2020.5.15号、BS11報道ライブ「新型コロナの重症化を防ぐ鍵は口にあり」にもお口の中の衛生管理が免疫力を高める記事が掲載されています。

お口の衛生管理が良く歯ぐきの炎症が少なく、しっかり食べられる状態であればコロナウイルスの感染も低下すると考えられています。これからもコロナウイルスと共存していくためには、日々のお口の衛生管理を頑張ってください。大切



歯周病に新兵器導入

歯周病の予防管理は歯周病菌を減らして歯ぐきの炎症を少なくすることです。そのために歯磨きと歯周病菌を抑制する薬剤が有効です。

今回は歯周病菌が住み着く歯周ポケット内を微粒子で噴霧することにより機械的に歯周病菌を洗い流すと同時に歯の根の表面をきれいにする機器です。この機器は1981年にスイスで創業した歯科医療機器メーカーが開発したのですが、日本の老舗メーカーが取り入れたことで、コンパクトで使いやすい機材としてこの春から販売されました。東京医科歯科大学で講師をしている知人の歯科衛生士から、効果を実感されて薦められました。また、理論的にも効果が期待できます。



定期健診を受診されている方へ

この4月より健康保険制度が改正されました。今回は予防管理に重点が置かれた改正と、当医院が「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所」のため定期健診の費用(一部負担金)が上がることになりました。